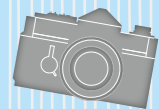


まちの話題



あなたの周りの身近な出来事や話題をお知らせください。
問い合わせ 市広報秘書課 ☎ 43・8113



感動に包まれた迫力の野外フェス

宗像フェス(Fukuetsu Koinoura)



▲会場を埋めつくす観客がアーティストとフェスを盛り上げました

恋の浦を会場に、9月8日と9日の2日間、宗像フェスが開催されました。両日も小雨が降り、会場の芝生はぬかるんでいましたが、大勢の来場者でにぎわい、飲食ブースでは県立水産高校も出店していました。ライブ会場では、体全体に響くようなドラムの音や歌声に魅了された観客が、アーティストの動きに合わせて、手を振るなど、会場が一体になっていました。9日に福岡市から来ていた野崎知夏さんは「好きなアーティストが出演するので来たけれど、知らないアーティストの歌もすごく心に響いてファンになった。また来年も来たい」と話してくれました。両日の締めくくりには、2日間合計で7千発の音楽花火が打ち上げられ、会場は感動に包まれていました。

実行委員会は、イベント以外にも海岸清掃などの環境保護活動や、世界遺産保全のための寄付など、さまざまな地域貢献活動に取り組みました。

ロマンティックビーチで乾杯

第1回福津バル



▲カフェで披露された華やかなダンス

福岡海岸の景色を楽しみながらカフェやレストランの料理を食べ歩く「福津バル」が9月1日と2日に開催されました。お店だけでなく、砂浜でもヨガやダンス、音楽ライブなどが催され、夜遅くまで海岸はにぎわいました。北九州市から訪れていた石田和志さんは「夕日が見えなかったのは残念だったがけれど、料理はおいしくて、雰囲気もすごく良かった。また光の道の時期に遊びに来たい」と話してくれました。

秋の訪れを告げる風物詩

金刀比羅神社の秋祭り



▲境内で奉納された獅子舞

金刀比羅神社で9月9日、県内で一番早いと言われる秋季大祭が開催されました。この祭りは五穀豊穡を祈念するもので、神輿や太鼓などの神具を持った氏子たちの行列が、在自から津屋崎千軒を練り歩きました。見物客の女性は「雨が降らなくて良かった。今日はとても肌寒く、秋がすぐそこまで近づいているようだ」と話してくれました。

子どもたちが集う空間をこれからも

市児童センターフクスタの来場者が10万人を突破



▲公務員を目指しているという鬼木優太さん

毎日たくさんの子もたちでにぎわう市児童センターフクスタの来場者が、8月23日に10万人を突破しました。10万人目の来場者となった高校3年生の鬼木優太さんは「中学生の頃からフクスタに来て勉強をしたり、遊んだりしていた。静かで、集中して勉強ができる場所なので、毎日来る時期もあった。自分が10万人目になるとは思っていなかった」と、突然フクスタの職員や小学生に祝福され、驚きながら話してくれました。

市職員が復興支援活動に参加

平成30年7月豪雨被災地で復興支援



▲土砂崩れで倒壊した宇和島市吉田地区の家屋

7月6日から8日にかけて西日本で記録的な大雨が降った「平成30年7月豪雨」。豪雨被災地を支援するため、県と市町村から22人の職員が愛媛県宇和島市に派遣されました。市からは下水道課の櫻井さんらが8月1日から9日まで被災地で支援活動をしました。「昨年の九州北部豪雨でも、朝倉市でのボランティア活動を経験していたので、そのときの経験が生かせると思った。宇和島市だけでも350箇所以上の土砂災害が起き、吉田地区では浄水場が土砂で埋まって水道が使えなくなっていた。少しでも早く復興してほしい」と思いを語りました。櫻井さんは、避難所で避難者の話を聞き、何を必要としているか集約して会議で報告したほか、避難所での物資の受付や清掃活動などを行いました。

津屋崎で始まり20周年

ふくつビーチサッカーフェスティバル



▲競り合いながら鮮やかなボレーシュート

20周年を迎えたふくつビーチサッカーフェスティバルが8月18日から19日にかけて津屋崎海水浴場で開催されました。快晴の下、約30チームが出場。20年間出場を続けている銭花博司さんは「22歳の頃から人生の半分近く、この大会と関わってきた。たくさんの方が集まってくれて本当にありがたい」と笑顔で話してくれました。